



池の水生生物を網で捕まえる児童ら

＝大和村思勝

水生生物増へ調査

環境整備に反映 大和・まほろば水と森公園

大和村の大和川下流域にある「まほろば水と森公園」の調査団の第1回自然観察会があった。同村は、多くの水生生物が生息する池でつくる「まほろば生きもの」を目指して環境整備を進める方針で、調査結果を役立てる。同池は広さ約500平方メートル。近くに「アミノクロウサギミュージアムQuaru Guru(くるくる)」や環境省の奄美野生生物保護センターがあり、同村は観光客に池の見学も楽しんでもらいたい考え。

観察会は15人が参加。NPO法人奄美野鳥の会理事の山室一樹さん(64)や環境省職員らの指導を受け、ヤゴやゲンゴロウなどを網で捕まえて種類を確認した。見た目がメダカに似ており、他の水生生物の捕食が問題となっている外来種のカダヤシも数多く見られた。

大和村の大和川小学校6年、山本大智さんは「カダヤシの多さに驚いた。対策が必要だと感じた」。山室さんは「今後も観察会を続け、周辺に土を増やすなどの環境整備を進めていきたい」と話した。

2025年8月29日付11面

【問1】 「まほろば水と森公園」にはどんな池があるのでしょうか。

人工池

【問2】 問1は、どれくらいの広さなのでしょうか。

約 500 平方メートル

【問3】 誰に池の見学も楽しんでもらいたい考えなのでしょうか。

観光客

【問4】 見た目がメダカに似ている外来種の名前は何でしょう。

カダヤシ

【考えてみよう】

身近な地域の水生生物について調べてみよう

むずかしい漢字とことば

下流域(いき)＝河口に近く、川が海に注ぐまでの部分 環境(かん・きょう) 方針(ほう・しん)＝めざす方向、やり方 奄美(あま・み) 網(あみ) 捕(つか)まえる 確認(かく・にん) 捕食(ほ・しょく)＝捕まえて食べる 驚(おどろ)く 対策(たい・さく)